

分科会名	研究主題「学校・家庭・地域との連携を図る取組の工夫と教頭の役割」		
第3分科会	～全市におけるコミュニティースクールとしての取組について～		
提言者	多久市立東原彦舎西溪校	氏名	古賀 一成
協議の柱	① コミュニティースクールとしての組織づくりをどのように行っていけばよいか。		
協議内容	<p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクラップアンドビルドで、行事を精選してきたが、具体的には全学年の相撲大会を低学年については地域行事との重なりもあり、地域にかえして行わないことにした。 ・ 地域との連携にコミュニティが入るとスムーズにいいが、人材バンクの整理が難しい。 ・ 地域連携は困り感があり、必要性がないと機能しない。地域連携のコーディネーターが必要だが、地域に詳しく動ける人材がいるといいのだが。 ・ 地域の方々の思いを大切にしていきたい。しかし、全てを受け入れては飲み込まれてしまう。行事を精選しながら考えていきたい。 ・ 学校と地域の関係がうまく機能しているか問題で、資金の面やPTAとの兼ね合いも問題視される。 ・ コミュニティースクールは時代にマッチしているが、組織を立ち上げるのが大変そうだ。だれを運営委員にするかが重要で、そのコーディネーターは公民館長さんであったり、地域の有識者であったりするのではないか。 ・ 組織を立ち上げるに際して行政の力も必要であろう。教育委員会など学校とマッチアップしていかなければと思う。 ・ 運営委員の高齢化の問題もある。委員の選択にはバランスを考えて、PTAやそのOBなど幅広い範囲を考えていきたい。 		
指導助言者	佐賀県教育庁学校教育課 指導主幹	氏名	陣内 剛 様
指導助言者からの助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律では学校運営協議会の設置は努力義務になっており、将来的には全ての学校が取り組むことになるのではと考える。現在佐賀県でも多くの地域でおかれているが主に西部地区で進んでいる。 ○ 社会教育の面からも地域連携が必要視されている。地域を活性化し地域と協働活動を行うことが重要である。そのためには調整役が必要だ。 ○ 地域との連携はなぜ必要か、地域の課題は何か、学校の課題は何か、双方向的な関係が必要である。学校としては地域のお願いし、また返して児童生徒の自己肯定感を高めていきたい。 		

分科会名	研究主題「学校・家庭・地域との連携による児童生徒の育成」		
第3分科会	～学校・家庭・地域が一体となった教育環境を通して～		
提言者	鳥栖市立旭小学校	氏名	井手 崇雄
協議の柱	<p>①小中連携推進の教頭としての関わり方</p> <p>②働き方改革と学校・家庭・地域との連携をどのように推進するか。</p>		
協議内容	<p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携はどちらかというと教務主任や主幹教諭が中心になって行っている地域が多いと思う。教頭同士が集まる時間を設定し、情報交換を行うことがよいと思う。 ・ 鳥栖西中校区の小中連携は各部会でうまく連携がとれている。ユニバーサルデザインを中心にした研究がよく進んでいて、学年間での系統性がよくとれている。 ・ 働き方改革の観点からは、PTA 行事を削るのは難しいが、子どもたちを中心に据えながら、うまくやっていくことが必要だ。事前に PTA に知らせていきながら、業務を改善・精選していけばよいと思う。(1 学期通知表の所見をなくすなど) ・ 学校の実情を地域も把握している。遅くまで先生方が残っている実情がある。地域も協力していく。中学校の部活の問題が大きく課題が残る。 ・ 夏のプール掃除を地域の方に手伝ってもらったが、先生方や子どもたちの負担を減らすことができた。 ・ 大きな行事は先生方だけではなく、保護者や地域の負担も大きい。いいところだけ残していくことが必要だ。 ・ 義務教育学校になるといつでも授業参観ができ小中間の連携がうまくとれている。小学校の先生方が中学校の中体連などの試合の応援に行ったり、中学校の先生が専門的な授業を小学生にしたりできている。 		
指導助言者	佐賀県教育庁学校教育課 指導主幹	氏名	陣内 剛 様
指導助言者からの助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何のための連携か、めざす子ども像を地域と学校が共有し、教頭は全職員を把握し調整役を行わなければならない。また、SSW や民生委員との窓口となるであろう。 ○ 鳥栖は教科「日本語」を中心に小中連携が進んでいる。学習習慣や学習規律の視点を大切に、児童生徒の自己肯定感を高めてほしい。 ○ 人事異動があるので、小中連携のモデル化をしておくとの後の先生にも分かりやすいであろう。 		